

ポアンカレ予想(Poincare Conjecture)の証明は、宇宙の「かたち」の解明に道を拓くトポロジー幾何学の世紀の難問として知られていたのですが、ロシアの若い数学者ペレルマンによって遂に達成され、さらに「私の研究は金や名誉のためではない」として米国のクレイ研究所が提供する百万ドルの賞金や数学者の最高の栄誉とされるフィールズ賞を辞退したことから、NHKのドキュメンタリーや「ポアンカレ予想を解いた数学者」(日経BP)にも取り上げられ一般の注目を集めることにもなりました。こうした展開は、高分子の「かたち」に関する「高分子トポロジー化学」という基礎的(地味)な研究を進めている私にもたいへん興味深いもので、偶々高分子の「かたち」とトポロジー幾何学について「高分子」誌に私見(偏見?)を執筆する機会をいただきましたのでご笑覧いただければと存じます(来年2月号に掲載予定)。東工大に転任して間もなくこのテーマに巡り合い基本コンセプト特許を出願したものの拒絶査定となり、その後不服審判請求を行って特許庁と永らく揉めていたのですが、出願から10年経った今年になって特許庁が「悔い改め」遂に特許成立となりました。この間の私たちの研究の進展が少しは効果を及ぼしたのではないかと考えております。最近の研究については研究室のホームページをご覧くださいければ幸いです(<http://www.op.titech.ac.jp/lab/tezuka/ytsite/index.html>)。

今年は年廻りの専攻長のお努めで大学院入試への対応に追われましたが、一方急な依頼をいただき、女子大のおしゃれ大好きお嬢さん(1年生)百人を相手に化学の基礎を講義する栄誉?の機会もありました。また昨年から「Reactive and Functional Polymers」誌のAsian Editorを拝命しており、ちょうど出版社(Elsevier)がWeb投稿システムを導入し投稿経費負担がなくなったことと相俟って投稿数が激増し、その対応に文字通り忙殺されることになりました。投稿論文の水準も目に見えて向上しており、アジアの研究爆発を最前線で経験する得難い機会となっております。中国では今年の大学への新入生は一千万人近くに達するとのことで、数の力が実感されます。一方で、まもなくピークアウトして今度は一転して急激な減少になると予想されています。現在、多くの留学生を受け入れている日本の大学は今後どのような対応を迫られることになるのでしょうか。

また今年は久しぶりの今井・塩見研同窓会で長岡・大学再訪の機会を頂きました。今井先生・奥様はじめ懐かしいみなさまとご一緒するたいへん楽しい一刻となりました。キャンパスの木々が育ち歴史と伝統を感じさせる雰囲気になっていることにも感動し、長岡の街の変化にも感慨を覚えることになりました。

今井先生には益々のご健勝を、また同窓生の皆様にはお元気でご活躍を続けられますようお願いいたします。なにとぞよいお年をお迎えください。